

平成24年度 杉森中学校 第5回学校運営協議会 会議録

日時 平成 24 年度 9 月 26 日(水)17 時 00 分～19 時 00 分

会場 杉森中学校 会議室

出席者

《協議会委員》 石田 壽文
高崎 彰
大川 洋
伴野 博美
岡田 円治
安藤 雄太
大熊 康子
松本 美智子
大橋 亮介(校長)



《杉森中学校事務局》
田邊 克宣(副校長)
シュタイバーリング 育子(教務主任)
松尾 宏(生活指導主任)
金子 敏治(進路指導主任)
長谷川 祐子(嘱託事務)



《教育委員会教育支援課》

志村 玉江

伊藤 彰大

傍聴 一野 まり

司 会 今日は、杉並区教育委員会学校支援課より志村さん、伊藤さんに来ていただきました。

では、学校からの報告をお願いいたします。

校 長 8 月 28 日から 2 学期が始まりました。今年度からの導入ですが、スムーズにっています。

9 月 8 日(土)学校説明会があり、63 名の方が出席されました。道徳授業地区公開講座もあり、伴野さんに講演していただきました。大変有意義な時間を過ごすことになりました。

1 年生は 9 月 18 日に移動教室があり、相模湖に行ってきました。

1 年生は、自分たちで考えて行動するのが得意でない生徒が多いと思いました。周りを見てどうすべきか判断する能力がまだ足りない。しかし、2 日目の後半からは次第にできるようになって来ました。これからの成長が楽しみです。

10 月 25 日は合唱コンクールが、国立オリンピック記念青少年センターで行われます。ぜひご参観いただければと思います。

震災救援所訓練に本校のレスキュー隊 10 名のうち 7 名が雨の中参加し、炊き出しの手伝いもしてくれました。今後も頑張ってもらいたいと思います。

10 月 6 日(土)にふれあい運動会に初めて参加します。

少人数制での授業をぜひ取り入れてほしいというものがあります。今は英語と理科ですが、数学もぜひ取り入れたく、かなり難しい状況ではありますが、都教委へ申請をします。

副校長 学校だよりをお配りしました。中学生レスキュー隊が杉並消防署との連携で各訓練に参加し、7 m の高さからの降下訓練・渡過訓練・放水訓練などに参加しました。部活は夏休み中熱心に活動していました。

学校公開の来校人数が出ています。のべ 457 名でした。

保護者の感想として窓がきたないとの事。委託会社のソシオさんが定期的に窓ガラスを清掃してくれているので、どこだろうと見回ったところ、教室の入り口のドアが曇っていました。日々の清掃できれいにするように指導していきたいと思います。



少人数指導の充実・学習向上のために、CS のほうでもできるだけの協力を
していきたいと思っています。

司 会 道德地区公開講座のときに講演してくださった伴野さんのお話、とてもよか
ったですね。

A 委員 「親ばか」「ばか親」の違いとか…。



司 会 では、先生方からのご報告お願いいたします。

教務主任 夏休みに「NHK アートの岡田さんを訪ねて職場見学をさせていただきました。
コンピューターグラフィックでの場面展開や会場設営の様子、小道具・大
道具の部屋、衣裳部屋なども見せていただきました。

ありがとうございました。

伴野さんの講演会も、とても良い講演で「自分は普段息子に対してどうなん
だろう…」と振り返ったりしてみました。

9 月 28 日に 2 年生の校外学習で鎌倉を予定していましたが、台風のために
10 月 3 日に延期になりました。

9 月 30 日から 10 月 2 日は 3 年生の修学旅行です。10 月 5 日には進路説明
会があります。今日生徒会で役員選挙がありました。10 月 10 日には後期の役
員決めがあり、新しい組織になります。

また、10 月 15 日から合唱コンクールに向けての練習が入ってきます。10
月 25 日が本番です。

連合文化祭 11 月 4 日から 11 日まで連合文化祭があります。ポスターを作り、
500 枚が区内に配布されます。

9 月 22 日、ロンドンオリンピック卓球女子団体の銀メダリスト福原愛さん
が杉並区スポーツ栄誉賞を受賞されました。区内の小中学校の卓球部が招かれ、
2 年生の根岸君と小学生の代表が福原愛さんのサイン入りラケットをいただき
ました。ラケットは福原愛モデルです。その時の様子がテレビ東京で放送され
ました。

生活指導

生徒の様子ですが、始業式の日には並び方が変わっていたので、少し戸惑っていたようです。しっかり並ぶことの意味をもう一度生徒たちに話していこうと思います。10月12日避難訓練があります。「不審者対応訓練」で、生徒には事前に知らせず昼休みに放送で体育室に集めます。

部活は盛んになってきました。これから新人戦がはじまります。早く始まった野球部は1回戦目はパーフェクトで勝ち、2回戦目は同点で勝敗がつかず、最後はジャンケンで決めることになり、負けてしまいました。

普段から危険を予測する力をつけることが大切です。小さい頃から自分で判断する力がついていないのです。

杉森中では5分間走の成果があがったのか、持久走偏差値が47だったのですが、全国平均を超えました。これは自慢できることです。継続していくということはすごいことだと話しました。

進路指導

夏休みのイングリッシュサマーキャンプ(ESC)ですが、英語科が2名変わったので、新しいメンバーで行きました。毎年伴野さんにも来ていただきスイカ割りも楽しみました(笑)

学校支援本部で見ていただいている成果が出て、英語・英検の2次テストの合格率がよくなりました。

1年生は相模湖プレジャーフォレストに行きました。今年はフォークダンスを1週間前から練習していたようです。

2年生は校外学習で鎌倉に行く予定です。翌年の修学旅行に備えて、現地では班行動をします。

3年生は30日から修学旅行の予定ですが、合唱コンクールの方に燃えているようです。事故・ケガがないように指導して行ってきたと思います。

ご存知のように、都立推薦入試の内容が変更になります。今までは調査書点が高い生徒が入る傾向にありました。今までは7～8割だったのが、今回から5割程度になります。個人面談に加えて集団討論などを取り入れ、色々な能力の生徒を推薦で採りたいようです。



志 村

学校支援課学校支援係の志村と申します。

「教育ビジョン 2012 推進計画」というというパンフレットをご覧ください。
「共に支え共に学び共に創る杉並の教育」として、今後 10 年をどのようにやっていくかという事を見据えた取り組みです。家庭・教育・地域がひとつになって共に支え、学校を作っていく。学校づくりはまちづくりということで、地域運営学校・青少年委員・地域の方々の後協力をいただいて、新しい学校づくりを進めていきたいと思っています。

学校運営協議会・学校支援本部には教育委員会としても重点を置いています。



司 会
志 村

和田中では、部活の受益者負担をやっていくという話を聞きましたが。

朝日・東京新聞にも載っていたのでご存知かもしれません。現在、教育委員会では外部指導員という形で依頼しています。生徒が減って教員も減っていく。顧問の先生が異動になって、次に来た先生がその部活の顧問に入れるかわからない…という事が起きてきます。

部活のない土日に、保護者が独自に団体を作って、民間企業と二者で契約を結んで子供たちを指導してもらうという試みを行っています。学校教育活動外の保護者の自主活動ですので、教育委員会としてもコメントするのは難しい点もあります。

部活動を補充する一定の役割はあると思いますが、有償制を理由として参加しない生徒がいる場合どうするかという課題があると考えます。

A委員

教育ビジョン推進計画ということですが、どこがイニシアチブをとるのか、という事をはっきりと開示してもらいたい。

志 村

今までの地教連より一歩進んでいく、ということで地教推というものになります。ただ新たに組織をつくるというのでは、より忙しく煩雑になってしまいます。今ある組織と濃厚に関わりあっていく事が大切だと思っています。

施行期間も含めて3年くらいですね。なぜそういうものを作ったか、成果はどうだったのかという事を教えてほしいです。

B 委員 施行期間を含めて3年ということですね。なぜそういう機関を作ったのか、成果はどのように表れたのかという事をお知らせいただければわかりやすいと思います。

志 村 内部の成果等につきましては検討組織も設けまして、一定の結果をご報告しながら他の地域にお披露目していくということになると思います。

司 会 学校支援課の方から何かありますか？

志 村 学校支援課の事業は、学校を支援していく施策をやっています。杉並区育ちの私が子どもの頃には、学校支援本部・学校運営協議会のようなものはありませんでした。杉並区は他の追随を許さない位、教育では常にリードしているということで、他区の運営協議会などと比べてみると、もう何もかもやりつくしてしまったのではという感じがします。先行している故に、問題が起きたときに自分で解決していかなくはいけないという面もありますが…。

他の先行自治体からの情報も共有しつつ他の区のお手本になれるようにがんばっていききたいと思います。

司 会 9月19日、朝日に「地域と運営・コミュニティースクール」に載っていた記事によると「学校の方針に異議なし」というのが85%ということで、十分コミュニティースクールの権限がいかされていないのではないか、ということが考えられます。人事権などに権限がないというのは、コミュニティースクールとして意味があるのだろうか。丁寧に見てほしい。



C 委員 いじめの問題で、コミュニティソーシャルワーカーが配置されていくと思うのですが、今後どういう展開になっていくのでしょうか。

志 村 不登校・いじめは以前から問題になっており、天沼中に「さざんか教室」が設置されました。中央図書館にもそのような施設ができたばかりです。建物ばかり作ればよいというわけではなく、以前は年が近い学生さんに行ってもらっていました。

最近は学校のスクールソーシャルワーカーとして心理の勉強をしている方が相談を受けています。早くから新たな課題にも取り組んでいます。

C委員 早くやったかではなくて、対処方法が重要だと思うんです。たとえば、大津の事件では間違った対応をしてしまった…。

どういう環境を作っていくのか、建物や人数ではなく何気なく声をかけられる関係を築けるか…。地域にはそういう人がたくさんいますよね。そういう人達を巻き込んでいく。

B委員 行事などは地域ぐるみでやっていこうということですよね。名前を変えるだけでは意味がないんです。

司 会 まるなげされてしまうことが多い。スクールカウンセラーは学校の事態をわかっていない人が多い。それを教えてあげるスーパーバイザーがほしいですね。スクールソーシャルワーカーは様々な連携の中で学校の事を知ってもらわないといけません。

D委員 いじめの問題ですが、いじめをどうしてくいとめるか。教育としていじめをどう子どもたちに考えさせるか。道徳授業が大きな柱になっていくのではないのでしょうか。人間が社会で生きていくときに、そこで生きていく為に自分より下のものを作ってしまう。「くさい」「きもい」などいわれのないことでいじめ。よいほうにいけば、切磋琢磨になるが、悪いほうにいくと「お金をもってこい」など以前よりエスカレートしていく。そういった問題をどう議論していくのか、教育をどう実践していくのか…知りたいです。



E 委員

ここにある、(教育ビジョン 2012 目標Ⅲの③)いじめ・不登校対策ですが、これはいじめ対策にはなっていないんじゃないかと思います。不登校がいじめに原因があるかのような表現になっていすよね。いじめとしての項目で何かこういうふうにしていこうという書き方ならわかりますが。道徳との関連で言うなら、教育学のほうではいじめはなくすることができるといわれています。

いじめは学校の風土・雰囲気の問題が大きく関わっている。いじめを容認する雰囲気かどうか。日本の子どもたちの自己肯定感が低い。自分の心で感じたことに価値を持たなくなり、人の目をみなくなる。いじめを見ても傍観者となってしまう。日本では傍観者が非常に多い。抑止力が育たないのが大きな問題です。いじめの対策は傍観者たちを放っておかない。そういう子どもに育てることがポイントです。他の国ではいじめは小学校低学年をピークに段々減っていく傾向にあります、日本のいじめは中学校 1 年にピークが来ている。

自尊心がしっかり育っていれば人をいじめることはできなくなる。良心の呵責にあって自分の心が痛くなってしまう。中学 1 年に多発するという事を考えると、自尊心の形成が教育目標にされていないということだと思います。

スクールカウンセラーがピアサポート活動に参加してくれる子どもたちを集めてやっています。いじめをしないさせない、イエローリボン運動が 11 月の人権週間にあります。生徒の過半数が「いじめは許さない」という状況であればいじめはめったに起きない。

司 会

では、学校図書室についてですが。

F 委員

学校図書室に司書が配置され、図書室が充実してきました。図書室が開かずの間でなくなりました。それだけではなく司書教諭を配置することも大切だと思います。司書任せではなく、学校教育として運営していく必要があります。

文学にもいじめについてのものがたくさんあります。道徳授業などにも取り入れてほしいです。実際に先生方にも図書室に来てほしい。今は先生方も忙しすぎて…。せっかく予算も 80 万もついているので、さきほどからのお話のように、設備だけではなく実際に活用することに意味があると思います。教育委員会のほうでもそういったことを研修などで話していただければと思います。

G 委員

今のお話でなるほど、というように思いました。今年杉森中の岸さんとボランティアの方で、図書室が少しでも居心地良いところになるようにと工夫してくださっているのを見させていただきました。

私が学生時代には国語の授業を図書室でやっていました。杉森中は良い位置に図書室がありますので、国語の授業などに活用してもらえればと思います。

E 委員

学校図書館の貸し出し数、中学校の平均値が年間で 3.3 冊ということですね。

これをどうとらえていくかが問題です。道徳は事前指導・事後指導がとても大切です。事後指導にテーマに関わる本を教員がどれだけ紹介できるか…。リストにしたら 100 冊以上はあります。もっと学びたい、もっと知りたいということに対して教員がどれだけ答えられるか…。

E 委員



司 会
会 長

では「平成 24 年度学校運営協議会事前アンケート」をご覧ください。
10 月 16 日に学校運営協議会連絡会があります。年に 1 回です。今年は事前にどういう事が問題になっているかという事を聞かれました。そのアンケートを協議会として提出します。何かご意見があれば聞かせてください。

E 委員

この中で、生徒会が年に一度の懇談会で協議会と話しているのがとてもいい。フランスでは生徒会の代表が発言権をもっていますよ。

司 会

昭和 25 年のフィルムが中野五中で見つかり、見たのですがそれには生徒会が PTA に堂々と意見を言ったりする場面が映っていました。子どもが参画した学校経営もあったんだな…と感慨深かったです。

広報誌もテーマを決めて過去の報告ばかりでなく、座談会で話したことなどを載せる必要もあるのではないですか。

C 委員

学校の中だけではなく、広報の充実はもちろんですが、地域を巻き込んでいかないと…。

会 長

地域というと、杉一小的ワールドカフェはとてもよかった。大きな力でした。杉森でもできないですかね。

B 委員

すごいパワーが必要。いかにつなげるかが大切ですね。中学校のほうがやりやすいと思います。そういう活動があつて広報誌があるといいですね。広報誌はすべてを網羅する必要はない。座談会などをして載せていけばよいのでは。

F 委員

生徒会と先生とが「いじめ」について話し合うというのはどうでしょう。

B 委員

先生の前では本当のことが言えないかも…。

C 委員

本音を引き出す仕掛けがほしいですね。場面がいくつか必要ですね。

F 委員

初めからあきらめないで、言語活動の充実にもなるのでは…。

B 委員

子どもとの座談会を広報誌に載せていいかはまた別問題だと思います。よく吟味する必要がありますね。

司 会

では広報誌に関しては、次回こんなことをやりたいという案を考えてくるということにしましょう。